

# 東アジア経済統合の歴史と展望

2006.12.12(RIETI-BBL)

宗像直子

## ○ 研究の動機 <序文>

## ○ 主張

- ・ 東アジア経済統合は、米国にとっても利益。
- ・ 東アジア各国が変わらなければ、共同体はできない。
- ・ 壮大な構想より、できることを着実にやるべし。
- ・ 経済外交の出発点は、国内改革。

## ○ 東アジアの地域主義とは <第2章>

- ・ 理想としての共同体
- ・ 域外の懸念に答える
- ・ 推進力(他地域対抗、相互依存、域内競争)
- ・ 障害(多様性・遠心力、対米依存、制度化への躊躇)

## ○ 地域化の実相 <第3章>

- ・ 輸出指向型直接投資がもたらした途上国の政策変化
- ・ 域内生産ネットワークの形成(工程細分化、モジュール化、集積)
- ・ 電子と機械に集中する垂直的産業内貿易
- ・ 最終需要の域外依存

## ○ 歴史分析 <第4~7章>

### 第1期 地域主義構想の競合

米国の重層的政策、APECを巡る路線対立、EAEC騒動、参加国か内容か

### 第2期 APECの優位

自由化の方法論論争、EVSLの挫折、APECの贈り物、EAECの亡霊

### 第3期 地域主義についての新たな想定

2つのタブー、通貨危機と米国の後退、改革の手段としてのFTA

### 第4期 FTA競争

中国のキャッチアップ、米国の回帰、「構想は地域大、行動は二国間」

## ○ 日米中の政策 <第8章>

日本:未完のパラダイムシフト、国家戦略とロードマップの必要性

米国:アジアへの低関心、ゼーリックの着実路線、分割統治か統合受容か

中国:善隣友好外交とFTA、地域秩序の受容と予見可能性、実施の質